

もの がたり
物語 日本史

ジュニア
博物館

7

●原始から現代まで



ジュニア博物館／7 物語日本史

N. D. C. 210 偕成社 1978年 250p. 23cm



著者
発行所
印刷
製本

1970年8月 1刷

1978年10月 6刷

著者 桑田忠親
発行者 今村広

本文組版印刷 新興印刷製本株式会社
写真版製版 株式会社興陽社
多色印刷 小宮山印刷株式会社
製本 文勇堂製本工業株式会社

発行所 株式会社 偕成社

東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3の5
振替 東京5-1352番 電話(260)3221

(乱丁・落丁本はおとりかえいたします)

8321-708070-0904

© 桑田忠親 1970

Printed in Japan

●読者のみなさんへ

日本は、みなさんがごぞんじのように、アジア大陸の東のはずれにある小さな島国です。しかし、四面を海でかこまれているため、これまで、ほかの国の侵略をうけることもなく、自分たちの力で、この国をそだててきました。

古代から現代にいたる長い歴史のあいだには、さまざまな事件がおこり、そのときどきに、いろいろな人物が登場して、活躍しました。そのような人々は、当時の政治や社会を、すこしでもよくするように考え、それを実行してきたのです。その努力のつみかさねが、現在の日本を形づくっているのだといえるでしょう。

そこで、わたくしは、この『物語日本史』では、歴史の大きな流れを軸にしながらも、そのような歴史上の人物の足どりを紹介することに、とくに力をそそぎました。もちろん、学校の社会科でも習わないおもしろい話や、よりくわしい史実を知ることができるようにくふうしたつもりです。

また日本は、ときには、戦乱にあけくれしたこともありましたが、異民族の侵略をうけたヨーロッパ諸国や、歴史のあさいアメリカなどちがって、むかしからつたわる歴史上の遺跡や遺物・書き物などがたくさん残っています。これは、焼けたり、なくなったりしたものをのぞいても、みなさんが想像する以上の、おどろくべき数量に達しています。

そこで、それらの貴重な史料の写真を、できるだけたくさん紹介するようにとめました。その一枚一枚は、多くの史料のなかからえらびだした代表的なもののばかりです。です



■著者の略歴 一九〇二年東京都に生まれる。国学院大学国文学科を卒業。現在、国学院大学大学院文学研究科委員長。文学博士。『千利休』、『戦国武将の生活』など多数の著書がある。

から、それらの写真を解説文を読みながらめぐるだけでも、知らずしらずのうちに、正しい日本史の知識を身につけることができるでしょう。

正しい日本の歴史を知ることが、みなさんがたが、自分の生まれた国・日本を、よりいっそう愛する人になることだと、わたくしは信じます。そうして、この本が、数多くの小學生や中学生のみなさんに、ひろく愛読されることを願っています。

この本をまとめるにあたって、とくに伊藤藤哲郎さんのお力ぞえをいただきました。また各方面のかたがたから、貴重な写真や史料を提供していただきました。ここに、つつしんで、お礼を申しあげます。

国学院大学教授 桑田忠親

もくじ

〈1〉日本の国づくり

日本列島のうつりかわり 12

国うみの神話——海のなかにしずんでいた日本——大陸つづきだった日本

日本民族のなりたち 16

日本人の先祖はどこからきたか——旧石器時代から新石器時代へ——日本民族のなりたち

なぞの女王国 20

魏の国と耶馬台国——耶馬台国のありか

大和朝廷のなりたち 23

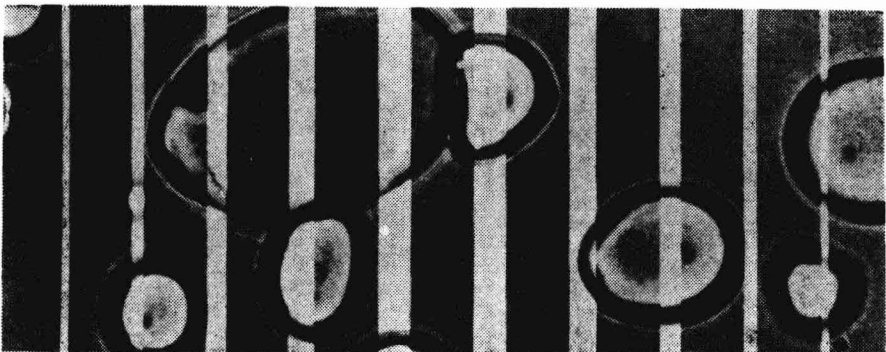
大和の国のいわれ——唐古の遺跡——神武天皇の神話

日本の統一 26

国ゆずりの神話——ヤマトタケルのものがたり——日本の統一

〈2〉貴族の政治

蘇我氏と物部氏のあらそい 31



百濟からつたわつた仏教——蘇我・物部氏のあらそい——物部氏の敗北
聖德太子の政治と外交 35

聖德太子の政治——天皇ということば——隋と国交をひらく

大化の改新 39

皇位をめぐる対立——中大兄皇子と中臣鎌足——大化の改新——改新の諸政策

平城京と聖武天皇 45

平城京をさだめる——聖武天皇の政治

平安京と藤原氏の摂関政治 48

平安京にうつる——桓武天皇の政治——人臣摂政のはじめ——摂関白となつた藤原氏

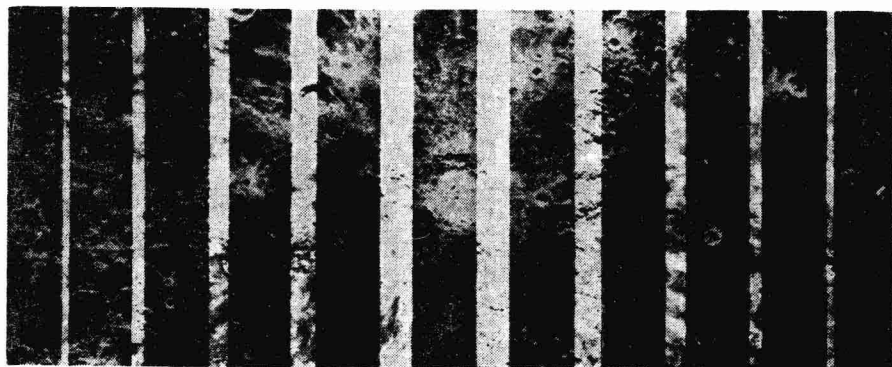
③ 源氏と平家のあらそい

地方武士の反乱 53

平将門の乱——藤原純友の乱

源氏と平家のあらそい

院政のはじめ——保元の乱——平治の乱 54



源氏の旗あげ 58

平清盛のおごり——源頼朝の旗あげ——黄瀬川の対面

平家のめつぼう 61

清盛の死——平家の末路

④ 鎌倉の将軍と執権政治

源頼朝と義経 63

兄と弟の仲たがい——義経のさいご

武家政治のはじまり 65

鎌倉幕府をひらく——武家政治のしくみ——うたがい深い頼朝——北条時政

のたくらみ——頼朝の子にころされた源実朝

朝廷と幕府のあらそい 70

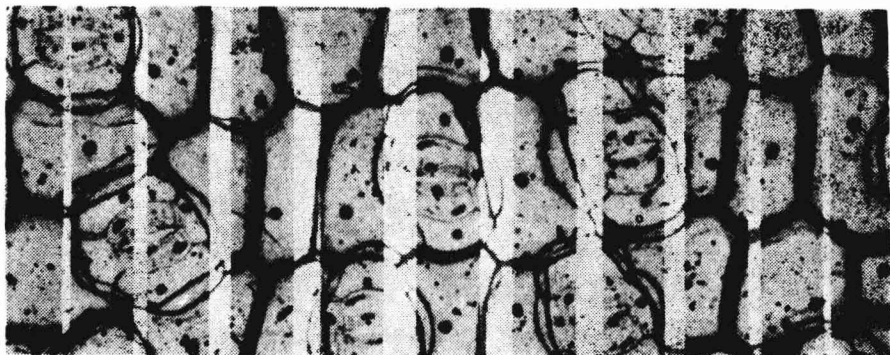
後鳥羽上皇と鎌倉幕府——承久の変——三上皇の島流し

北条氏と執権政治 72

北条泰時の政治——北条時頼の国めぐり

蒙古とのたたかい 75

蒙古の英雄チンギス汗——マルコ・ポーロの東方見聞録——蒙古の使い——



文永の役——弘安の役

〈5〉南北朝のみだれ

鎌倉幕府ほろぶ

二派にわかれた朝廷——後醍醐天皇のくわだて——高氏と義貞の反抗

建武の新政

政治をあらためる——新政の失敗

尊氏のうごき

護良親王と尊氏のあらそい——北条時行の乱——尊氏と義貞のあらそい——

湊川のたたかい

南朝と北朝

尊氏、北朝をたてる——南朝のはじめ——京都に幕府をひらく——足利幕府

のうちわもめ——南北朝の合一

〈6〉室町の将軍政治

専制将軍・足利義満

室町幕府のしくみ——倭寇と勘合貿易

守護大名の反乱

98

95

92

87

85

81



〈7〉 戦国日本の平定

山名・大内氏のむほん——義満と北山文化——將軍家のうちわもめ——鎌倉
將軍府の滅亡——暗殺された將軍義教

応仁の大乱

三魔のわざわい——細川と山名の勢力あらし——花の都の大戦争——下剋
上の世のなか——わきおこる一揆

南蛮人の渡来

ヨーロッパの近代化——ヨーロッパ人の東洋進出——鉄砲をつたえた南蛮人
——キリスト教の伝来

戦国大名のあらそい

戦国大名のなりたち——分国政治——大名たちのあらそい

織田信長の諸国平定

若き日の信長——桶狭間の戦い——京都に攻めのぼる——信長の敵となった
足利義昭——安土に城をきずく——本願寺と武田氏をくだす

豊臣秀吉の全国平定

秀吉の立身出世——信長のかたきをうつ——関白太政大臣となる——九州・
関東をせいばつする

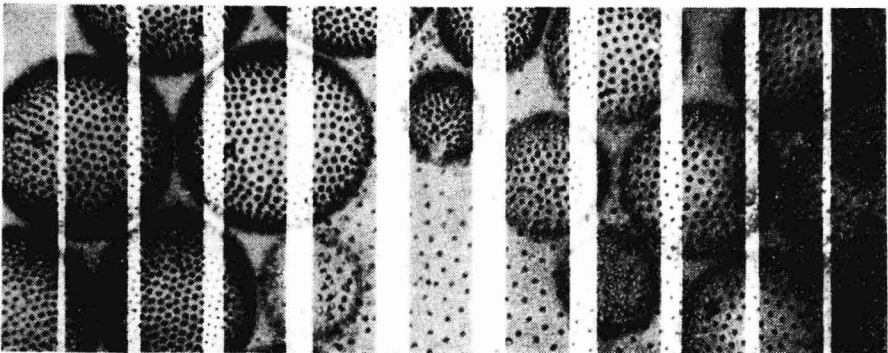
132

123

117

112

105



秀吉の統一政治 136

刀狩り——検地をおこなう——都市計画をおこなう——貨幣をつくる——身分制度をきめる

秀吉の外交政策 144

外交方針——朝鮮出兵・文禄の役——慶長の役——朱印船貿易

8 江戸の将軍政治

徳川家康の日本統一 149

関ヶ原の戦い——江戸に幕府をひらく——豊臣氏が滅亡する——江戸幕府の政治のしくみ

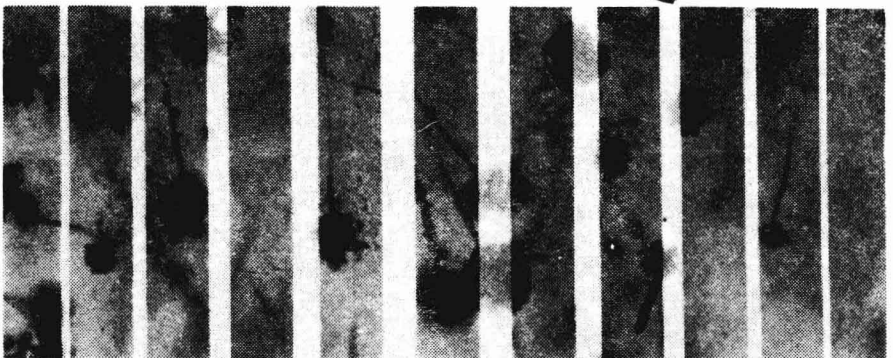
国をとさす 158

参勤交代の制度——外交政策と朱印貿易——キリスト教の禁止——渡航の禁止と鎖国政策

幕府政治のたてなおし 165

武断政治から文教政治へ——五代将軍綱吉の政治——新井白石の正徳の治——享保の改革——田沼政治——寛政の改革——大江戸の繁栄

江戸の文化と開国 176



⑨ 明治の新政治

儒学じゆがくの研究けんぎゆ——国学こがくがおこる——蘭学らんがくがつたわる——百姓ひやくしやう一揆いつぎと大塩平八郎おおしおへいはちろう
 の乱らん——天保てんぽうの改革かいかく——おしよせる世界の波なみ——黒船くろふねの来航らいかう
 江戸幕府えどばくふほろぶ 186

あわたたしい幕府ばくふの動きうごき——將軍しょうんのあとつぎ争めさそい——日米修好通商条約にちべいしうこうつうしやうじやうやくを
 むすぶ——安政あんせいの大獄だいく——桜田門外さくらだもんがいの変へん——公武合体こうぶくたいの政策さくさく——薩長同盟さくちやうどうめい
 ——大政奉還たいせいほうわんと幕府ばくふの滅亡めつぼう

維新いしんの政治せいじ 195

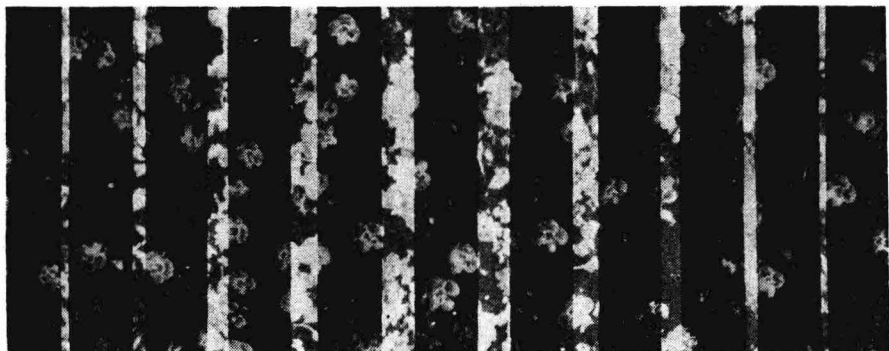
新政府しんせいふの政治方針せいほうしん——維新いしんの動乱どうらん——維新いしんの政治改革せいじかいかく——立憲政治りつけんせいじの確立かくりつ
 ——大日本帝国憲法だいにっぽんていこくけんぽうの制定せいてい

条約改正じやうやくかいせいと外交がいこう 202

条約改正じやうやくかいせいへの努力どりよく——条約改正じやうやくかいせいの実現じつげん
 大陸たいりくへの進出しんしゅつ 204

江華島事件かうかうじけんと日鮮修好条規にっせんしゅうこうじょうぎ——日清戦争にっしやうせんしやう——下関条約しものせきじやうやく——三国干涉さんこくかんしやう
 日露戦争にちろせんしやうと国際関係こくさいかんけい 210

植民地しへんちにされた中国ちゆうごく——北清事変へいしやうじへん——日英同盟にちえいどうめい——日露戦争にちろせんしやう——ポーツマス
 条約じやうやく——戦後せんごの国際関係こくさいかんけい 210



《10》 戦争から平和へ

第一次世界大戦と日本 215

第一次世界大戦はじまる——日本も大戦に参加——ベルサイユの会議——国際連盟の成立

第二次世界大戦への道 217

大正デモクラシー——ワシントン軍縮会議——昭和のはじめ——大陸進出——国際連盟から脱退——日華事変と防共協定——第二次世界大戦はじまる——太平洋戦争おこる——不利になった戦局——ポツダム宣言だされる——太平洋戦争おわる

新生日本のあゆみ 224

ポツダム宣言の実施——新しい政党の結成——選挙法が改正される——日本国憲法の公布——教育基本法の制定——国際連合の成立——平和条約をむすぶ——日本の将来

資料参考	
① 日本歴史年表	230
② 日本歴史参考地図	238

総さくいん (五十音順) 巻末

物語^しがたり^{がたり}日本史^し

桑田忠親 国学院大学教授

ジュニア博物館

7



桃山時代の末につくられた職人尽図屏風のうち染物屋(狩野信筆)。喜多院蔵

〈1〉日本の国づくり

日本列島のうつりかわり

国うみの 神話

いまから一千年ほどまえに、日本の朝廷でかかれた『古事記』という本には、おもしろい話のついでに、

それによると、遠いとおいむかし、まだ天と地との区別さえなかったころ、神々がつぎからつぎへと生まれて、この日本という島国をつくり、そこに人間たちをすまわせたのが、日本の歴史のはじまりだ、というのです。①

この世のいちばんはじめは、高天原とよばれる天がてっぺんにあり、地は、水の上に油がういているように、ところろし、くらげみたいに、たよりなく、ふわりふわりとかかんで

いました。そこに、沼の岸べに芦の芽がもえでるように、ふたりの神が生まれました。

はじめ、アメノミナカヌシノカミというこの世の中心にあたる神が生まれ、そのつぎに、タカミムスビノカミとカミムスビノカミとが生まれたのです。

いっぽう、地のほうでも、油のようにどろどろしたものが、しだいにかたまっていき、しまいに地面らしいものができるまでのあいだに、男の神と女の神が生まれ、あわせて八人の神々が、つぎつぎと生まれたあとに、イザナギノカミという男神とイザナミノカミという女神が生まれました。すると、高天原にいるいちばんえらい、アメノミナカヌシノカミは、このふたりの神をよびよせて、



青銅でつくった銅鐸



イザナギ・イザナミノカミはほこで海をかきまわし、八つの島をつくりました。

「あのふわふわしている土地をかためて、日本の国をつくりあげよ」といって、みごとなほこをさすけました。

そこでふたりの神は、天と地とのあいだにかかっている天の浮橋の上に立って、海を見おろし、さすけられたほこで、油のようにとろとろしているところをかきまわしますと、しだいに形ができ、しまいに、そのほこをひきあげると、そのほこのさきについた潮水がぼたぼたとした**たりおち**。それがつもりかたまって、ひとつの小さな島ができあがりました。ふたりの神は、よろこんで、その新しい島において、そこにご殿をつくり、すみまじした。

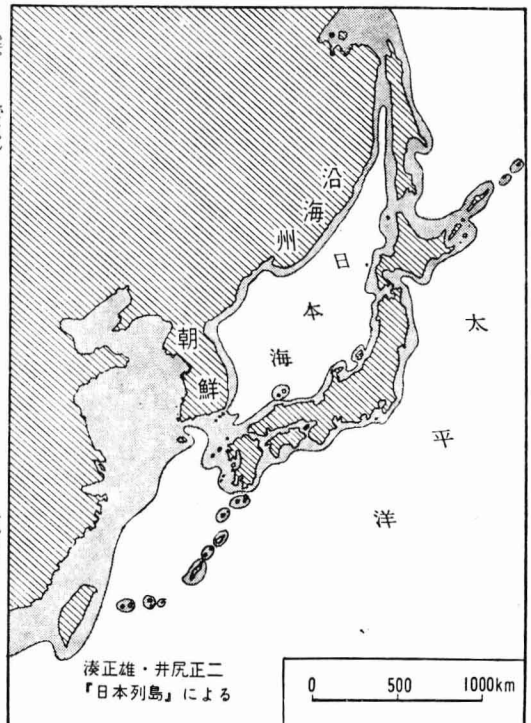
そうして、はじめに淡路島をこしらえ、つぎに伊予・讃岐・阿波・土佐の四国がひとつになった島、そのつぎに、隠岐の島・筑紫・壱岐・佐渡の島々をつくり、さいごに本州という大きな島をこしらえ、それに「おおやまととよあきつ島」という名まえをつけました。これらを合わせると、八つの島々ができあがりました。それで大八島の国ともよび、またの名を豊葦原水穗国とも、となえました。

いよいよ国ができあがったので、こんどは、たくさんの方の神を生みました。風の神・海の神・山の神などを生み、火の



↑ 古生代の海陸分布 約2億年まえには
日本は海の底にしがずんでいました。

↓ 約20万年まえの日本



神を生むとき、イザナミノカミは、おおやけどをし、それがもとで、死んでしまいました。
『古事記』には、日本の国のはじまりについて、このように、たいへんおもしろく書いています。

しかし、どう考えても、ふしぎな話で、じっさいのこととは思われません。けれども、わたくしたちの先祖であるむかしの人々は、ながいあいだ、これを信じてうたがいませんでした。

明治時代になってから、地質学・考古学などという、西洋

の新しい学問がはいって、むかしのことがらが研究されるようになると、このような国うみの神話は、ほんとうでないことが、わかってきました。

海のなかにし ずんでいた日本

さて、地質学のほうから考えると、日本の陸地と海とのあいだには、たびたび大きな変動がおこっていることがわかりました。そこで、一万年以上も大むかしの洪積世とよばれた時代に、国うみの神話にでてくるような



日本の島々が、アジア大陸とはべつにあったか、どうか、問題になってきます。

日本列島をかたちづくっているいちばん古い地層は、いまから十億年ほどまえのもので、そのころ、その大部分が海の底にしずんでいたことがわかります。

ところが、いまから三億年ほどまえに、海の底のほうで、さかんに火山が活動して、一億五千万年ほどまえには、現在

ナウマンゾウの化石 千葉県印旛沼で発掘しているところ。大陸から地つづきになっていた日本にわたってきたものです。

の日本列島があるあたりの海のところどころに、小さな島々が、うかんんだり、しずんだりしていました。このように、陸地の上下運動がくりかえされているうちに、五千万年ほどまえになって、はじめて日本列島のほねぐみができあがったということです。

みなさんは、日本列島の全体が、海の中にしずんでいた時代があった、といったら、きつと、おどろくことでしょう。

大陸つづき

だった日本

アジア大陸の東のはずれの海の上に、日本列島のほねぐみができあがったのが、いまから五千万年まえだったということ。地質学のうえでは、新生代の第三紀にあたります。そのはじめごろから、日本の国が陸地となるための上下運動が、かっぱつになりました。

しかし、はじめからいまのような列島ではなく、アジア大陸と地つづきで、半島の形をしていたと考えられています。

一千万年ほどまえには、日本半島の地盤がしずみだし、陸地はいまよりずっと小さくなりました。ところが、百万年ほどまえに、人類が活躍しはじめたころ、海の水がひいて、日本の陸地がひろくなり、アジア大陸とだけでなく、フィリビ